



エアロビックW杯で準優勝
宮島 果音さん・12歳
下小出町二丁目

何事にも全力投球

「今回の大会は思ったとおりに体が動いて、とても楽しく踊れました」

ことし4月に開催された、スズキワールドカップ2015のAG1（12～14歳）トリオ部門で準優勝を果たした。

「大会に出ていい結果が出た時が、エアロビックをしていて一番嬉しい瞬間です」

3歳から体操を習いはじめた。体を動かすことが大好きで、右手を骨折し、しばらくはヒップホップ教室に通いはじめた。それが宮島さんの転機となった。ヒップホップ教室の先生が彼女の才能を見抜き、エアロビックの世界へと導いたのだ。

現在は週に4回エアロビックの練習をし、ヒップホップの練習も週1回続けている。ことし中1になり、部活動もはじめた。多忙な日々を送っている。

「疲れるときはあるけど、体を動かすことがストレス発散になっているので、練習は苦になりません」

彼女の目標は、個人の部で優勝すること。

「今から結果を残して、シニア（17歳以上）の部に出られるようになったときに、日本で1番を取れる選手になりたいです」

何事にも全力投球の宮島さん。今後も目標に向かって頑張る彼女を応援したい。



臨江閣で結婚式

5月3日、「上州に咲く愛の花 文と素彦 132年目の結婚記念日」の企画で、臨江閣にて結婚式が行われました。この日挙式を行った小池一夫さん、典子さん夫妻は結婚12年目。「皆さんの支えで素晴らしい式となった。新たなスタートにしたいです」と感慨深げに話しました。



Vol. 12

この連載では、市民に寄稿してもらい、さまざまな角度でアーツ前橋を紹介します。第12回は、地域づくり協議会環境部会で活躍している粕川在住の長谷川秀子さんです。

地域の良いところを発見

長谷川 秀子さん・58歳

アーツ前橋の地域アートプロジェクト「風の食堂in粕川」にコーディネートとして参加しました。今まではアーツ前橋の活動に親しみを持てずにいましたが、今回、自分の



住んでいる粕川地区で行われたプロジェクトに参加して意表を突かれました。プロジェクトは地区の良いところを引き出し、地域の人たちに地域の良さを改めて知ってもらえたり、その表現の仕方を気付かせてくれたりしました。アーティストの作品制作のために、地区内の高齢者を取り材しましたが、昔の神事や菰玉、ケズリバナの伝統を知っている人は少なく、今の高齢者が子どものころに聞いた話として知っているという程度。その記憶は地域の中で忘れ去られようとしています。アーティストを通じて神事に触れると、今までは面倒だと感じていたことの中に、実は楽しさや思いやりがあると気付き、家族や隣近所、人と人とのつながりが、とても大切だと再認識。私も地域づくり活動の中で、孫や若い人たちに、その大切さを伝えていけたらと思っています。アーツ前橋には新しい美術館として、このようなプロジェクトを続けてほしいです。

問い合わせは
アーツ前橋 ☎027-230-1144



春まつりでGWの思い出づくり

児童文化センターで5月2日から6日まで、こども春まつりが開催されました。まつりでは太陽の観察や鉄道模型の運転体験、こいのぼりコンサートなどのイベントが盛りだくさん。訪れた子どもたちは、ゴールデンウィークの思い出づくりをしていました。



緑に囲まれ祭りを楽しむ

4月29日、敷島公園で敷島公園まつりを開催。県産食材コーナーやミニライブ、ボート池の無料開放などのイベントでにぎわいました。魚のつかみ取りでは、子どもたちがはだしで池に入り魚を捕まえ、大はしゃぎ。緑豊かな公園で楽しいひとときを過ごしました。